

Web Usability & Accessibility

11 日本道路公団サイト



アクセシビリティ分析担当
濱田英雄
(株)ユーディット 主任研究員
hamada@udit-jp.com



ユーザビリティ分析担当
石田直子
(株)ユーディット 研究員
naoko@udit-jp.com

(株)ユーディット
URL <http://www.udit-jp.com>
「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルなWebの制作やコンサルティング、高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている。

サイトの目的は理解できるが、ナビ機能など利用時を考えた工夫を

「聖域なき構造改革」を標榜する小泉首相が、具体的方針を明らかにしたのが、2001年暮れに発表した「特殊法人等整理合理化計画案」。同計画は、163の特殊法人、認可法人を対象に、事業・組織形態の改革事項について掲げている。対象となった法人の中で、とくに関心を集めている日本道路公団サイトについて、濱田・石田両氏が「ユーザビリティ&アクセシビリティ」状況を監督する。

トップページのカテゴリはサイト設計段階で吟味

ユーザーの多くはトップページを見て、自分たちの欲しい情報の有無を判断します。カテゴリ分類はトップページに書かれた目次となり、我々はサイトの大雑把な全体像を頭に描きます。こうした全体像や流れの把握はメンタルモデルと呼ばれます。

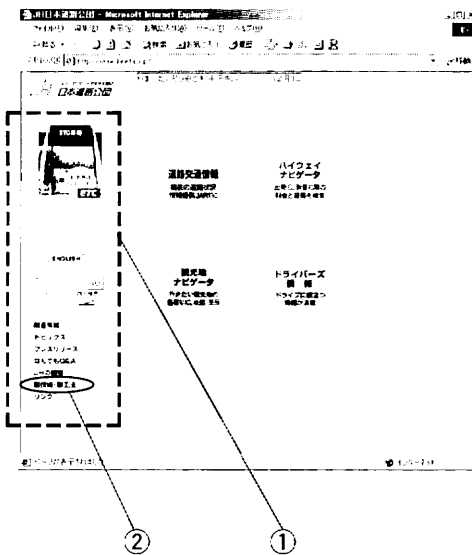
トップページの項目が多すぎて、カテゴリ分類が見えないサイトによく出くわします。下位のカテゴリの内容を目立たせたり、サイトの目的に合わない内容を載せてカテゴリをはみ出してしまふ、などが要因といえます。

カテゴリ分類は、サイトの設計段階で目的や内容をよく検討し、情報を整理した上で、今後載せられる情報を予測して決定する必要があります。サイトが公開されてからカテゴリがころころ変わっては、ユーザーも混乱し、運用する側も大変です。カテゴリの数は大雑把でも、細かすぎてもわかりません。多くて10、せいぜい8くらいに抑えるべきでしょう。

上記のことは、今日Web制作者にとっては当たり前のことかもしれません。しかし、残念ながら省庁系のサイトでは情報てんこもりのトップページが未だ数多く見受けられます。

道路公団のトップページでは、メインコン

図1 <http://www.jhnet.go.jp/>



ユーザビリティ総合評価 ★★★★★

一ロコメント きれいでまとまりあるサイトの要素を持ちながらも、各メニューの自己主張が折り合わず、崩れてしまったデザインが多く見られました。

アクセシビリティ総合評価 ★★☆☆☆☆

一ロコメント 音声ブラウザではかなり問題があります。また、コーナー毎の配色変更は悪くないのですが、色の使い過ぎのような気がします。

テンツとなる「渋滞予測」などのサービスが中央にあり、左にその他のカテゴリと、画面構成はすっきりしています。トップページだけを見るとまずまずですが、左フレームにあるナビゲーションに、右フレームのメニューが入っていません。この点については次ページで説明を加えたいと思います。

サイトの見方は千差万別環境設定を変えて診断を

サイトを見る環境は人それぞれで異なり、制作者と同じように見られているわけではありません。そこで時にはいつもと違う環境で見る必要があります。OSやブラウザの違い、これにバージョンの違いも加わって、デザインや色が「エッ、こんなに違うの」と驚くことがあります。さらに弱視の人の中には、見易くするために白バックに黒文字、黒バックに白文字、黒バックに黄文字、などと背景色や文字色を変えている人もいます。

サンプル(図5:49ページ参照)はInternet Explorerの場合ですが、ブラウザの設定から色を「Windowsの色を使用する」のチェックを外し、ユーザー補助の「Webページで指定された色を使用しない」にチェックを入れた場合です。これで、バックは黒になり、文字は白くなります。

道路公団のトップページでは、見ておわかりのようにリンクなどのテキスト画像が見えなくなっています。これは作成時に画像を透過gifにしたからです。バックが白なら問題ありませんが、黒バックに黒文字では見えなくなってしまうのです。ですから、黒のテキスト画像の場合は、透過ではなく、バックと同じ色を入れておく必要があります。あなたのサイトでも一度試してみると、思わぬ落とし穴が見つかるかもしれません。

ユーザビリティについて (解説/石田直子)

日本道路公団(以下JH)といえば、民営化の情報やこれに伴うサービスの変更情報も気になります。また日常的には、渋滞情報や高速料金などを手軽に検索できるサービスが期待されます。こうしたニーズにユーザビリティの面で十分に応えているでしょうか。

ユーザーにサイトの目的が伝わること ★★★★★

トップページの項目では、JHサイトの主なサービス内容が明確にされています。とくに「道路交通情報」「ハイウェイナビゲータ」「観光地ナビゲータ」「ドライバースインフォメーション」が大きく取り上げられ、小さな字ですが簡単な説明もつき、内容が理解しやすくなっています。

全体像がトップページで把握できること ★★★★★

全体像はイメージしやすくなっています。800×600の画面サイズで見ても少しはみ出す程度。主なコンテンツが右のナビゲーションに、メインのサービスが左に大きく表示されています。ここでのイメージとサイト内の実体が合っていることが重要です。

デザインや構成が統一されていること ★★★

サイト内で同じ位置にナビゲーションがあると、マウスの移動が少なく操作性が高まります。JHではナビが左に配置され、常に同じメニューを参照できるようになっています。しかしトップページにはETCの広告画像があるため、他のページより少しずつメニュー位置が下にずれています(図1-①と図2-①の比較)。それと全体のデザインを共通化した跡は見られますが、実際に共通部品を使用しているメニューは半分ほどです。

必要な情報が適切な場所にあること ★★★

トップページの「道路交通情報」などのメニューが、フレームのナビゲーションの中ではありません。そのため1階層奥のページに入った後、これらのメニューへ行くには一度トップへ戻らなければいけません(図2)。

また「新着情報」「トピックス」「プレスリリース」と、各メニューの特徴が言葉やページを見ただけではわかりにくい。サイト自体の更新情報とJHからの情報、その鮮度の違いを、うまく言葉で表現しましょう。

次の動作がわかりやすいこと ★★

「ハイウェイナビゲータ」では高速道路料金の検索ができます。しかし出発地点と到着地点がテキストエリアに直接入力できず、地図から選ばなければいけません(図3と図3-①)。これでは、ユーザーが戸惑い、出発・到着地点がわかっている場合は手間がかかります。また地図上のエリアをまたぐICなどの場合、別の地域をクリックしてしまい、目的地点を探せない恐れがあります。

予想されたフィードバックが返ってくること ★★

「新技術・新工法」や「道路交通情報」内の「一般道の道路交通情報」は実は別のサイトへのリンクです(図1-②から図4へ)。これらがサイト内のメニューと同列に並んでいると、そこへ行ったときに元のナビゲーションが使えなくなり、ユーザーのメンタルモデルが使えなくなります。JHでもこうしたページへ飛んだ後に、「トップページ」「新着情報」の言葉に見つけにくさやダブリが生じています(図4-①、②)。

図2 JHの概要 (トップからの1段階奥の例)

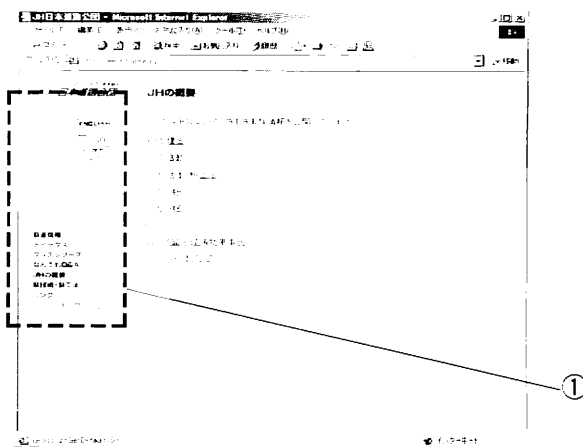


図3

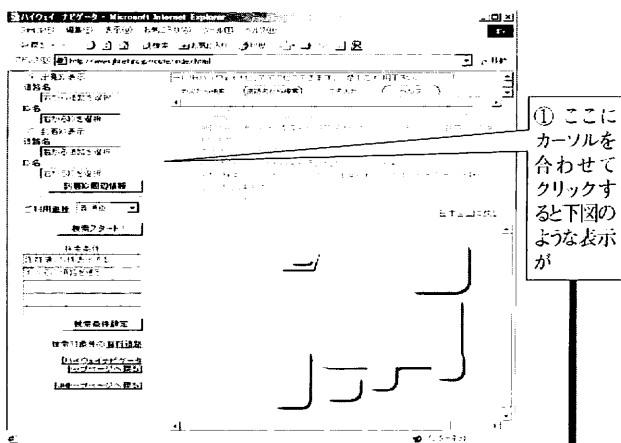


図3-①

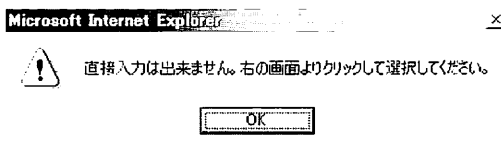


図4

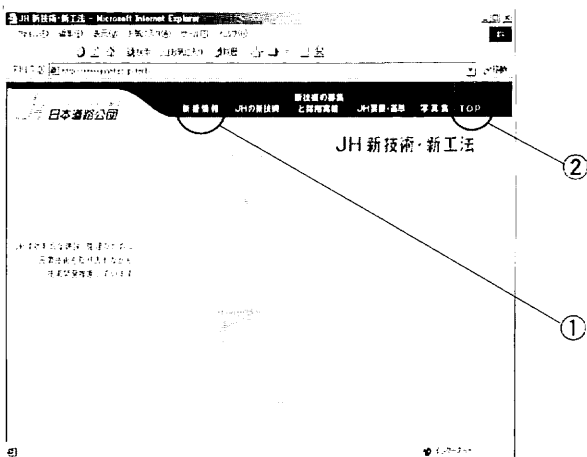


図5 <http://www.jhnet.go.jp/>

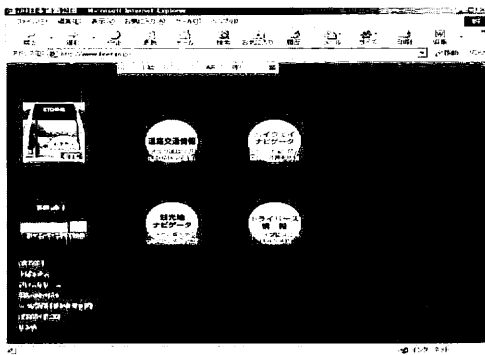


図6 <http://www.jhnet.go.jp/>

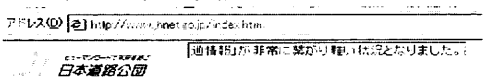


図7 <http://www.jhnet.go.jp/english new/index.html>

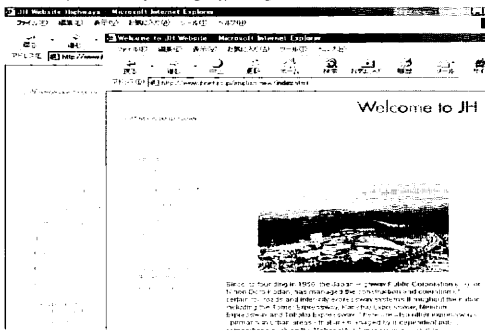
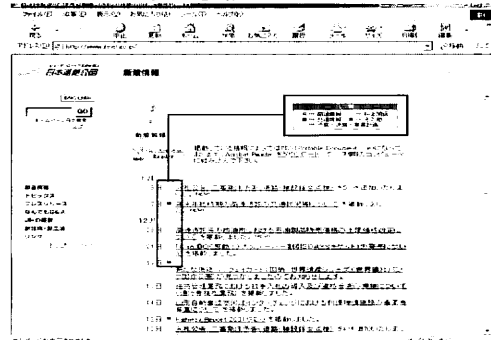


図8 <http://www.jhnet.go.jp/>



図9 <http://www.jhnet.go.jp/>



アクセシビリティについて (解説/濱田英雄)

画像にはALT属性をつけること ★★

リンクにJava Scriptを使用しているせいか、トップページなどにALT属性のついていない箇所があります。リンク画像にALT属性がないと、ファイル名ではどこにリンクされているのかわかりません。また、つけ方に問題のあるところも見つけられました。

外国語の乱用はしないこと ★★★

英語表記のタイトル画像にALT属性でフリガナがないなど、一部問題があります。

<title>タグは的確につけること ★★★

フレーム構造の場合わかりにくいのですが、同じ<title>がついたり、内容が理解しにくい英語名ものがあります。全体を見られない場合や、フレームを分割して解釈している音声ブラウザでは、この<title>こそが内容を知るための重要な情報です。表から見えなくても適切につける必要があります。

背景と文字色はコントラストがあること ★★★

淡色同士の組み合わせや、背景と同一色系の文字画像などの使用箇所があります。重要な情報にはコントラストをつけて、見やすくする必要があります。

フレームの使用は必要最小限にすること ★★

3分割や2分割などフレームが使われています。いくつかのフレームが本当に必要か、考慮して必要最小限にしましょう。

新しい技術には代替手段を用意すること ★

左メニューにJava Scriptが使われており、代替手段がないため、音声ブラウザではリンクできず使用できません。

その他

【トップページ】(図6)

●スクロールする文字

一番上にあるスクロールする文字がJava Scriptで作成されているため、Java Script未対応の音声ブラウザで情報を得られません。本当にスクロールする必要があるか、このためだけにフレームが必要か考えるべきです。

●Java Scriptによるリンク

ここも左側のメニューがJava Script未対応の音声ブラウザでは読み上げられません。テキストリンクを別に作るか、音声でも読めるような配慮が必要です。他にも何か所か同様の問題がみられます。

●メニューの作り方(図7)

「道路交通情報」や「ハイウェイナビゲータ」などのメインのリンクが左側メニューになく、フレームの利用価値が半減しています。英語のページは全体的にスッキリまとまっていて、メニューもそこに行くとサブメニューが表示される、わかりやすい構造です。

●ALT属性のつけ方(図8/図8-①)

ETC説明ページの一番下に「ETCの愛称が決まりました。『イーテック』と読んで下さい」という文字画像がありますが、ALT属性には「愛称」としか入っていません。これでは、音声ブラウザでは何の愛称かわかりません。画像の内容を正しく伝えるようにしましょう。

【新着情報】(図9)

●色による情報伝達

新着情報にある「開通情報」「料金関係」など、凡例を作り色別で情報を伝えています。わかりやすくすることは重要ですが、音声でも判別できるような工夫が必要です。

